



(公財) 全国青少年教化協議会の巻

【お話を伺った方】 ■常任理事 神 仁(じん ひとし)さん
 【聞き手】 理事長 相馬宏昭 【記事作成】 おかし屋ぱれっと 松本亜沙子

企業訪問第11回は「全国青少年教化協議会」様(以下、全青協)です。仏教教団60余宗派と企業が協力し、青少年の豊かな生活と未来を願い1962年に設立された財団法人です。様々な青少年活動を行なっています。

●ぱれっととのつながり

《相馬》全青協様とは、甘茶クッキーの開発から20年近くのお付き合いになります。今では全国のお寺からたくさんのご注文をいただいています。甘茶クッキーの開発のきっかけは、お寺で行なっている花祭りに使うクッキーということでのコラボレーションでした。

《神》花祭りはうちの団体ができた57年前当初から全国で開催していました。花祭りの中には色々な商品があるのですが、食べ物を今まで作ったことがなかったのです。塗り絵や風船といったものを花祭りの4月8日に全国のお寺で開催し配って頂いていました。仏教は皆繋がりが合ってお互い存在していくという教えを伝えていく事を目的にお釈迦様の誕生日にちなんで、4月8日の春先と12月8日のお釈迦様が悟りを開いた日に開催し全国で1万人程集まって頂いています。

私に関わっていました仏教書と児童書専門の出版社がありまして、そこで甘茶飴は作っていました。これがけっこうヒット商品で、同じものを作るよりもクッキーがいいのではと思い、ぱれっとさんの存在も頭にあったもので、ぱれっとさんならクッキーでいけるだろうとい

う思いのもと、甘茶飴にならって甘茶クッキーにしようかと私が提案しました。試作を作って頂き、なかなか甘茶の味を出すのに苦労しました。何回か作りなおして頂きましたが、バターの香に甘茶が負けてしまい、甘茶の風味が最初出しくかったような記憶があります。試行錯誤しながらでしたが、食べ物は甘茶クッキーだけを出しています。

《相馬》最初甘茶を頂いた時にお茶の葉っぱが甘いということに驚きました。甘いから甘茶というものだと思って知ってなかなか感動的な出会いでした。お寺さんによっては甘茶をお釈迦様にかけてたりしますね。

《神》本来の使い方はそうです。お釈迦様が生まれた時に天から甘露(甘い露)が降ってきたと。それに近いものが甘茶でできるということで甘茶になった歴史があります。キリスト教というクリスマスと一緒に。

●全青協の活動

《相馬》56年の事業の歴史がありますが、現代社会における子どもを取り巻く様々な問題解決についてお話ください。

《神》物とお金の時代になる中で、精神

性を大切にしていこうとオルタナティブ教育(=学校以外の学びの場)、全ての者が比較することなく尊い、それは障害を持っていようが持っていないが、男であれ女であれ、肌の色関係なしに全ての人が尊いという絶対的な価値観の元に全ての子ども達を育てていこうという教育を、お寺を通じてやっていきたいと思います。いじめの問題、虐待、不登校、カルト問題、引きこもり、自殺がどんどん社会化するようになり、予防教育だけではだめだと、インターベンション(介入)、アウトリーチ(直接支援)をしていかななくてはならない。全国の不登校に対応できるようなお寺のネットワークを作っていこう、自殺問題に対応できるようなお寺や仏教者を育てていこう、危機対応的な部分もお寺でやっていかなければいけない、要するに心と体の駆け込み寺になっていかなければいけないという思いで25年前から始めました。アジアの子ども達の支援もその一環で、日本だけではなく、仏教はインドから来ましたがインドをはじめとするアジアの子ども達を、里親制度などによって「教育」「健康」「自立」の3点から支援しています。

●世の中をどう変えていくか

《相馬》次の世代につなぐ思いで、全青教様とぱれっとが協働できるものはないでしょうか。

《神》障がいには色々あって、目に見え

るもの目に見えないもの、不登校の子どもにも発達障害があったり、路上生活者も同じです。数的なものを見方をすれば、例えばマジョリティ、マイノリティの世界。数が多いのがマジョリティで数が少ないのがマイノリティ。数の論理・価値基準で判断するのは違うと思います。

ダイバーシティの問題もあり、数とか費用対効果を問うのではなく、命という価値観、全ての命は平等で尊いという価値観に基づいて、社会の中で発露させていく、輝かせていく形での協働はできるかと思っています。不登校・引きこもりの子ども、ある意味マイノリティの立場におかれる人からの発言、動きが繋がれば、社会を変える大きなうねりになっていくと信じています。色々な現場やセクターが協働しつつ、全ての命が育まれる社会に変容させていく、成長させていくこと。我々と立場は違っても協働していけると 생각합니다。甘茶クッキーを全国にお届けしてもらうことで、障がいのある方の気持ちを全国のお寺さんに感じてもらう。間接的ではありますが、共感し価値観を共有していくことは重要だと思います。

《相馬》渋谷区の新たなスローガンに「ちがいを力に」とあります。多様化する時代、クッキーを通して全青教さんと協働しこれからも関係を育んでいきたい、そのように思いました。

本日は、ありがとうございます。

(NPOぱれっと理事長 相馬宏昭)

このコーナーでは、ぱれっととつながりのある企業の紹介をしてきましたが、今回は、企業ではなくおかし屋ぱれっととつながりの深い団体を訪問しました。このコーナーは今回をもって一旦終了、次回からは、ぱれっとの中期計画策定に向けたシリーズを連載していきます。乞うご期待!(そうま)